

北海道運輸局管内における障がい者雇用の促進等による運転者確保に関する調査等業務

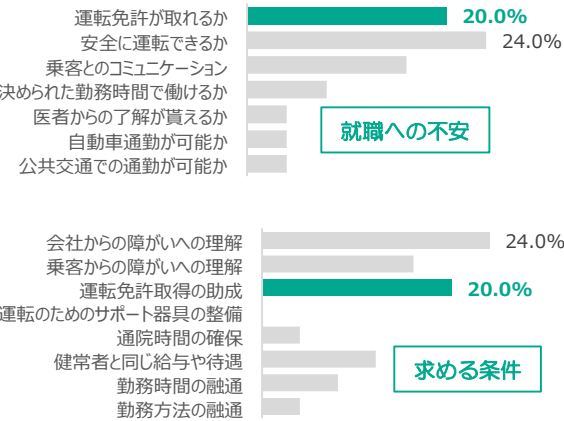
業務目的 バス、タクシー、トラックなどの運送事業における深刻な運転者不足の解消に向けて、障がい者雇用等の新たな施策を検討・提言することを目的として実施した。

障がい者雇用促進に向けた調査

特別支援学校における就職支援の状況

調査目的	道内の障がい者を対象に業界への関心や就労意向の現状を明らかにすること。
調査対象	北海道内の特別支援学校 59校（教員が回答）
結果概要	- 運輸業に対する関心が最も高いのは知的障がい者 - バス・トラックへの希望が存在し、障がいの等級は中・軽度がやや多い - 業界を希望する生徒からの免許取得支援のニーズあり

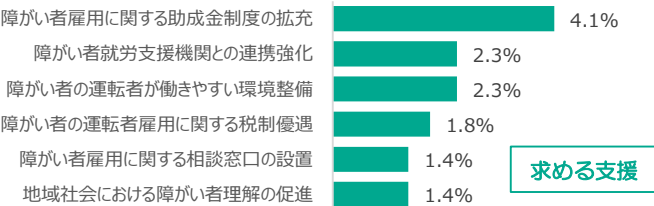
主な回答状況



運送事業以外の運転者への就業状況

調査目的	既に運転者として障がい者を雇用している事例から実態や課題意識等を明らかにすること。
調査対象	障がい者就労支援企業 認証企業 212社 北海道内地方自治体 障がい福祉関連部署 194団体
結果概要	就職希望と就業実態の障がい種別分布が乖離している可能性あり - 求める支援策は助成金制度が多い（現在雇用している企業における負担軽減的なニーズの可能性） - 今後新規の誘発には雇用する意義の構築・認知・浸透が必要

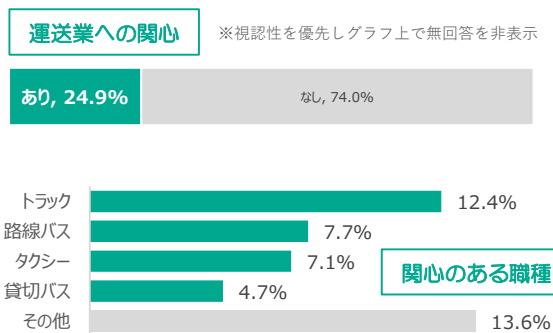
主な回答状況



在職者・求職者の状況

調査目的	道内の障がい者を対象に業界への関心や就労意向の現状を明らかにすること。
調査対象	北海道内就労移行支援事業所 126社（利用者が回答）
結果概要	関心が1/4程度、希望が1割程度と、運転者を志向する潜在層が一定程度存在することを裏付ける結果 - 中でもトラック運転者への関心が比較的高い 「乗客」よりも「会社」からの理解が求められている

主な回答状況

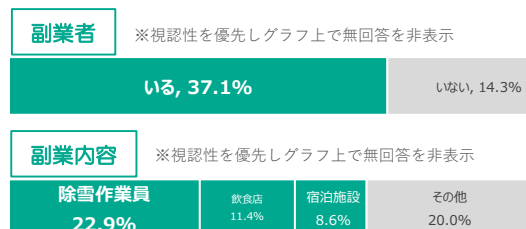


季節限定の雇用の可能性の調査

観光事業者における閑散期雇用の状況

調査目的	季節波動のある業界の従事者の活用可能性について検証するために、観光関連事業者の閑散期における雇用実態を明らかにすること。
調査対象	北海道内のキャンプ場やゴルフ場 117施設
結果概要	● 約半数で閑散期には一部の職員の雇用が維持されていない ● 閑散期に<u>副業をしている割合は1/3以上、検討している人を含めると半数以上</u> ● 一方で、意向等を踏まえると自然発生的に副業運転者が誕生する可能性は極めて低い

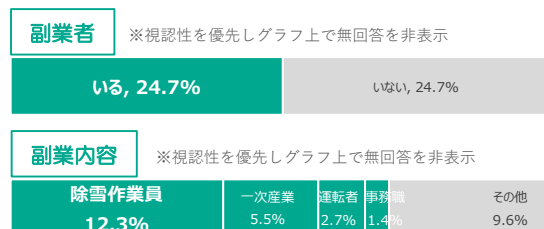
主な回答状況



農林水産関係者における閑散期雇用の状況

調査目的	季節波動のある業界の従事者の活用可能性について検証するために、農業法人の閑散期における雇用実態を明らかにすること。
調査対象	北海道内の農業法人 226事業者
結果概要	● 潜在的な可能性は観光事業者と同様、かつ人数・適正等ポテンシャルとしてはより高い ● 既に<u>タクシー、トラック、除雪用ダンプの運転者としての副業実態を確認</u>できた ● 生産者（作物）によっては秋季からの副業可能性もあるものと考えられる

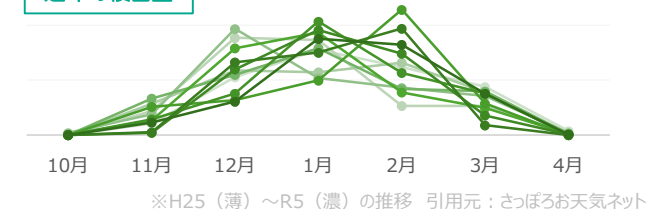
主な回答状況



除雪事業者における兼業可能性の状況

調査目的	除雪作業に従事しない日や時間における運転者兼業の可能性を明らかにすること。
調査対象	札幌市事業者リストから建設業等除雪以外の業容を含んでいることが読み取れた事業者 12社
結果概要	● 除雪作業の最盛期の晩期化が進んでいるが、総量としての積雪量の減少までは感じない ● そのため、冬季に手が空いて運輸事業に参入するという流れは今のところ考えにくい ● <u>建設事業者や農業者は重機操作経験が豊富なため、旅客接客技能を必要としないトラック運転者に適する</u>可能性が高い

近年の積雪量



総括

- 障がい者の運転者としての活用について、当初期待していたポテンシャルを一定程度裏付ける調査結果を得ることができた。
- 季節労働者の活用可能性についても一定程度のポテンシャルが確認できたものの、除雪事業等で既にオフシーズンの職が固まっている現状にある。
- 運転者人材としての活用のためには運送事業者側からの採用活動等の外的要因がないと、自然発生的に副業運転者が広まる可能性は少ないため、引き続き行政が主導しながら取組を普及していく必要がある。
- 人材側の実態・意向調査から活用可能性を検証することで、特性・現業スキルによって、適正が旅客輸送と貨物輸送とで分かれることがわかった。
- 一方で、輸送事業者側の業界別ニーズ（運転者不足の緊急度や求める人材像等）の把握は十分とは言えないため、今後は双方にアプローチすることで可能性調査としての精度を上げ、ひいては実質的なマッチングを行政が主導しながら進めていくことが必要である。